



Corus Preamplifier

ジェフ・ロウランドが本格的にアンプ創りを始めたのは、オーディオ録音機とビデオ録画機の先駆者であったAMPEXから退社した1985年でした。真摯に音楽を聴く人のために音が際立ち——まるで演奏者が聴き手の部屋で演奏しているような音を思い描けること——、それこそがアンプ創り当初からジェフの信念です。この目標のため、バックグラウンドノイズがきわめて低く、弱音部と強音部との差が大きいダイナミックレンジの広いアンプの開発に全注力します。

ジェフは語ります。

何もない真っ暗らで静寂な空間に音が立ち上がり、そして消えてゆく。
情景を心に浮かべながら回路を設計することはとても楽しい仕事です。

個々の部品自体では何もしません。しかし、組合わせると素晴らしい音を奏でる。命のないものに命を吹き込むことができるのです。

彼にとってアンプを作ることは、ゆっくりとした流れが崖を削ってグランドキャニオンを造り上げたように、全くストレスのない仕事なのです。そのオーディオ哲学を守り続け、ジェフはより静かで、よりくっきりとした音のアンプを創り続けています。CorusとパワーサプライPSUの組合せも、その哲学から生まれた、静けさと音の激しさとを兼ね備えたプリアンプです。そう、音楽信号に対して機敏に反応するのです。——他のアンプと決定的な違いをジェフはこう説明します。

わたしの作ったアンプは、音楽の無音部分を再現する力が最高に優れていると思う

いい音が聴きたい。

Preamp(プリアンプ)

LPレコード、CD、ハイレゾファイル、ストリーミングなど、さまざまな音楽ソースが手に入る現在、いい音を聴きたいのならば、いいプリアンプは不可欠だ。コーラスは入力信号に損失も変形もさせずにソース機器とパワーアンプとを結びつける。伝達する信号をストレスなく受け取り、パワーアンプに送るためにインピーダンスを最適に保つ。プリアンプとしての機能に加え、システムの広範囲なルーティングセンターとして多くのソース機器とパワーアンプとの高度に調整されたインピーダンスマッチング器として機能する。コーラスのアクティブトランス入力ステージはパワー変換技術、トランス出力ステージは外部からの信号汚染に対して鉄壁の対策となっている。

オーディオシステムの中核となるプリアンプには外部機器とのインターフェイスとしての、クロスシステム対応能力が求められる。それゆえに、あらゆるソース機器との調和を取ることが求められる。入出力回路には高精度トランスを採用、機器間のインピーダンス整合を図っている。搭載されたルンダール社製精密トランスは、高品質かつ優れた独自の捲き線技術を応用して製作されている。厳しい規格検査を経て出荷され、ミリタリー使用でも評価が高い。

トランス回路は外部からのノイズや歪みにさらされる鋭敏な回路を完全に保護する。多岐にわたるソース機器とパワーアンプとの整合性を考え、水を吸収するスポンジのように、パワーアンプがストレスなく細大漏らさず信号を受け取れるよう、入力インピーダンスは $40\text{k}\Omega$ 、出力は 60Ω とトランスに関して高度な技術と豊富な経験を持つ技術者たちと共に熟考の末に決定した。



Corus + Power supply

ルンダールは90dBのコモンモードノイズリダクションを全帯域に渡って保証する。そのおかげでデジタル機器との接続が安全かつ安心となった。外部機器との+、ー位相間インピーダンスのミスマッチは自動的に調整されるために、バランス、シングルエンドインターフェイス共に、入出力インピーダンスは一定に維持される。

プリアンプに接続されるフロントエンド機器の出力インピーダンスはさまざまである。入力トランスは数1000Ωの差違を調整し、外部からの悪影響を受けることがなかった信号をコーラスは扱うことができる。出力トランスは、NFから入力回路に逆流するRF、EMIからアンプを守る。コーラスの出力は電気的にも電磁的にも、隔離されている。どの出力もお互いにアースから干渉することなく隔離されているので、残留アース電流をキャンセルする。高度な隔離による信号の絶対的純度は、現代システムの複雑さを考えればとても大切だ。接続している機器の電源環境、電磁波などからのノイズ汚染対策の強力な手法として、回路は完全バランス回路となっており、コモンモードノイズリダクションはとても高い。



Corus + PSU

内部にはふたつのプリアンプ回路を備えている。第二回路は録音出力専用だ。コーラスの録音出力はメインのプリアンプ出力ボリュームとは別に調整できる。入力ソース機器のゲインに対し、プリアンプはひとつのボリュームノブで対応する。そのため、ソース機器のゲインを各入力について0.5dBステップで調整し、各入力に対して同じノブの動きでボリュームレベルが決められるように入力設定ができる。このように、コーラスはシステムの中核コントロールセンターとして考えられる機能を十分に搭載したモデルだ。多くのフロントエンド機器とパワーアンプとの整合を図るために、インピーダンスを整えて信号の全てを、足すことも失うこともなく正確に伝える。聴き手に桁違いの音楽体験を提供するために、ジェフ・ロウランドが持てる力をすべて注いで設計した、渾身のプリアンプ、それがコーラスである。

PSUはきわめてバッテリー電源に近い直流電流を供給する。アンプの電源はバッテリー電源、つまり、スーパー・キャップと呼ばれる最先端のコンデンサーを採用した、メンテナンスフリーのDC電源が理想だ。近年のエコ発電やEV技術進化の恩恵で、コンデンサーの能力は大幅に上昇した。コンデンサーを徹底的に研究し、デジタルコントロールチャージ回路の試行を経て、実に5年がかりで完成させたこだわりきわまる電源、それがPSUだ。ピュアでクリーンな電源はプリアンプの能力を高め、純度の高い音楽を奏でる。オーディオシステムのコアとなるプリアンプにこそ、その能力を100%発揮させたいという、ジェフの望みが実現した。



コーラスはPSUと組み合わせることで最高度のパフォーマンスを実現する。プリアンプ発表時から付属している電源もまた高い評価を得ていた。新たにバッテリー相当の電源を加える必要はないと思われていた。しかし技術進歩は、その正しい利用によってこそ最大の恩恵をもたらす。PSUを電源として使用することで、コーラスはその潜在能力を最大限に発揮できる。ささやくようなかすかな音から、炸裂する衝撃音までレンジが広まり、いっそう肌理も細かく、高解像度のプリントを目のあたりにするようだ。この肌理細かなダイナミックシェーディングは、高性能なスピーカーやフロントエンド機器が豊富となった今日、音楽を心ゆくまで楽しむには必要不可欠なものである。今こそ、ステージと演奏をリアルに描き出すプリアンプが、どうしても欲しくなる。もう、後戻りはできない。



<Corus>



<PSU>



<標準パワーサプライ>

Corus+標準パワーサプライ または、 Corus+PSU Specifications

ゲイン	各入力に対し独立して0~20dBまでプログラム可能
ゲインレンジ	99.5dB, 199等間隔
周波数帯域	10Hz ~ 300kHz, -3dB
最大入力レベル	13.5v (RMS) @0dBゲイン
最大出力レベル	13.5v (RMS)
THD+N/OIZ	0.003%以下 (@2vRMS出力, 50~20k Hz)
S/N比	100dB以上 チャンネルセパレーション 99.5dB 入力インピーダンス 40kΩ(バランス、アンバランス共) 出力インピーダンス 60Ω(バランス、アンバランス共)

入力端子	4ペア バランス (XLR).2ペア アンバランス(RCA)
出力端子	メイン出力: 4ペア バランス (XLR).2ペア アンバランス(RCA) REC出力: 1ペア バランス (XLR).1ペア アンバランス(RCA)
消費電力	消費電力 15w
重量	10kg (プリアンプ部) 3kg(標準パワーサプライ)
外形寸法	39.5 x 100 x 31.1cm(プリアンプ部) 12 x 10 x 28cm(標準パワーサプライ) 39.5 x 100 x 31.1cm (PSU)



株式会社 太陽インターナショナル

〒103-0027 中央区日本橋2-12-9 日本橋グレイス1F

www.taiyo-international.com

